

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2694000171		
法人名	社会福祉法人 京都福祉サービス協会		
事業所名	グループホーム桂坂		
所在地	京都市西京区大枝北沓掛町1丁目21番地の94		
自己評価作成日	平成30年1月8日	評価結果市町村受理日	平成30年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JirvosyoCd=2694000171-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JirvosyoCd=2694000171-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年2月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所は桂坂学区の福祉ゾーンに位置し、洛西ふれあいの里保養研修センターが担ってきた地域コミュニティの拠点としての役割を踏まえ、高齢者の居場所づくりの推進や、地域住民同士の交流の場の提供など、地域で高齢者を支えるネットワークの構築に力を入れています。  
今年度も前年度に引き続き、併設する小規模多機能との協働により、様々な行事の実施や地域活動への参加を行っており、暮らしにメリハリを持っていただくと同時に、一人ひとりの要望に応えた支援ができるように介護計画書の見直しを行いました。また、認知症が進行してもその方らしく暮らしているように、職員間での気づきを情報共有できるように、わずかなことでもノートに記載してチームアプローチをすることを意識しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該ホームは本人を深く知り個別の支援に繋げるためアセスメントの充実を図り、さりげない会話の中で職員が気づいたことや家族から聞いた思いなどを気付きノートに記入して共有しています。サービス担当者会議では本人や家族の参加を得て丁寧に思いを聞きながら、利用者の視点に立った介護計画となるよう話し合っています。地域との関わりも大切にしており、祭りなどの地域行事に積極的に出かけたり、児童館の子どもたちを招いた餅つきや定期的な近隣の支援学校の子もたちとの交流、腹話術やオカリナなどのボランティアの来訪の他、餅つきなどの施設行事では女性会の協力も得られています。また近隣施設が集まり消防互助会を作り災害時の協力体制を構築したり、地域交流室は連日多くのサークル活動等に開放し、地域と連携を図りながら必要とされる施設づくりを目指しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況  次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルーム内に理念を掲示している。管理者及び主任により、法人内メールで適宜、理念に沿ったケアが出来る様に呼びかけている。事業計画の内容を理念に沿ってケアが出来る計画にしている。	開設時の職員が話し合い作成した施設理念や理念を実現するための運営方針、年度目標を決め、半期毎に振り返り次年度の目標へと繋げています。会議では必ず理念を基に検討し、年度初めや問題が生じた際には全職員に一斉メールで注意喚起し理念に立ち戻っています。入職時には理念などの考え方が記載された文書を職員に渡し機会ある毎に確認するよう伝えていきます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老祝賀会、クリスマス会などの行事に地域の方が日頃練習されている事を披露できる場として活用していただき、入居者と交流を図っている。地域のお祭りにご入居者、職員が参加している。	地域の夏と秋の祭りに参加し、秋祭りでは管理者等が実行委員を担い屋台を出したり、施設で行う餅つき大会は児童館の子ども達や女性会の協力が得られています。腹話術やゴスペル等多くのボランティアの来訪の他、近隣の支援学校の子も達は定期的に来訪し交流しています。また地域交流室は連日多くのサークル活動等に利用してもらい地域交流が広がっています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座への協力。のほか、各学区の地域ケア会議へ管理者、主任、ケアマネが参加している。ご入居者の3割は地域住民である。地域で暮らすご家族にも当事業所で実践しているケアの根拠が分かりやすく理解できるようなケアプランを立案し随時ケアの根拠を説明している。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議議事録を職員間で回覧している。職員は、運営推進会議が実施され、そこで出た意見を把握している。運営推進会議の内容は現在は小規模のサービス評価が主になっている。	会議は家族や自治会関係者をはじめ多くの知見者の参加を得て開催し、ホームの現状や活動、事故報告などを行い意見交換しています。地域情報をもらい行事への参加や会議を通して民生委員新聞への開設一周年の挨拶文の掲載に繋がったり、エレベーターのロックについて暗証番号を表示するなどのアドバイスをしています。会議では様々な議題について意見交換が行われ有意義な会議となっています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議議事録を持参する際に、担当職員と現状報告や課題の共有を図っている。また、事業所連絡会でも施設の取り組みを報告している。	地域ケア会議や事業所連絡会等は行政からの出席があり情報交換したり、困難事例など分からないことは随時相談しアドバイスを心得ており、気軽に相談できる協力関係を築いています。また実践者研修などの案内には職員が参加をしています。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止についての研修を年に1度実施している。日常生活上の事故などが起こった際の今後のケアの在り方を考える際に、身体拘束になる内容になっていないかを確認し、職員へ身体拘束に当たるケアを具体的に理解できるよう説明している。エレベーターの扉が自由に開かないようにしてあるが、ご入居者がエレベーター前にて外に行きたいような事があれば、声掛けをしている。	法人の権利擁護や身体拘束に関する研修を受講し、不参加の職員にはビデオ学習で内容を周知し、施設内研修も予定しています。エレベーターは暗証番号を表示した上でロックしていますが、外に行きたい方には付き添い気分転換を図って貰っています。無意識による行動の制止が見られた場合は一斉メール等で都度注意喚起しています。

グループホーム桂坂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一回虐待に関する研修を実施している。認知症の進行によって日常生活動作がこれまでの様に出来にくくなっておられる事による混乱をご本人の立場に立って想像できるようにご家族や職員へ説明し、指示的なケアや関わりにならない様に努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修(成年後見制度)についての研修を年に1回を実施している。法人内の初任、中級、監督職対象の研修を受講している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分説明をし、報酬改定の際も事前に説明をし、文書でも説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの苦情や相談はに対して、改善内容も含め報告書、ケース記録へ記載し。運営推進会議で報告している。 満足度調査の内容に対して、説明を行い、運営推進会議で報告している。相談窓口を重要事項説明書に記載している。 ご入居者からの要望については、各担当職員を中心に引き出すように努め、ケアプランにも反映している。	利用者の希望は関わりの中で聞き日々の支援に反映させています。家族の意見は来訪時に利用者の様子を伝える中で聞いたり、満足度調査を実施しています。職員の言葉遣いなど家族から出された意見は会議で話し合ったり、メールで全職員に伝え注意喚起しています。また満足度調査を含む全ての要望などの取り組みについては運営推進会議で報告を行い、議事録を全家族に送付し報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議やメール等では、一方的な指示をするのではなく、職員で作り上げていけるように、職員に意見を聞く様にしている。	職員は月に1度の会議や日々の業務の中、メールなどの他、気づきノートを活用したり、年に1度個人面談の機会があり意見や提案を出せる機会になっています。職員からは多くの意見や提案が出されており、職員間で検討しバスの時刻に合わせた勤務時間の変更などに繋げています。また管理者などは職員の様子を見ながら随時声をかけ、話を聞いたり相談に乗っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護主任、管理者が、職員の状態を把握し、環境を整えている。(無理のない勤務、残業の軽減職員同士がコミュニケーションが図れるよう、気づいた事をノートに記載するなど努力している。事業計画に職員が5連休を取得するなど、リフレッシュできる環境づくりに努めている。希望休、有給休暇の取得が可能にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のレベルに合わせて法人内研修があり、受講している。新人教育については、プリセプター制度を導入しており、マンツーマンで指導している。 職員が希望する研修へ受講できるようにしている。日々のケアを考える際に根拠が言えるように指導している。		

グループホーム桂坂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	居住系部会へ職員が参加している。 法人内研修、地域ケア会議への参加を積極的に参加している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時や入居時にご本人の要望を聞き取るようにしている。又、入居後1週間は、生活リズム、嗜好、思いを知るように専用の記録様式を用い情報収集を行い、ケアに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接、入居時にはご家族の思いを必ず聞き、ケアに反映している。 ご家族が面会に来られた際には、普段の様子を伝えるよう心掛けている。又、ご家族から苦情があった場合には、傾聴し、苦情報告書を記入し職員に周知し、改善に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時の情報を分析し、ケアプランに反映させている。 これまでの暮らし、思いを理解できるようアセスメントしている。(センター方式シート活用)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いと出来る事、出来ない事を合わせて考える様にアセスメントを行いケアをしている。 ご本人の思いや嗜好を知りえた場合は、記録している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際には、普段の様子を伝えるよう心掛け、ご家族と本人が気兼ねなく過ごせるよう、居室へ案内したり、お茶をお出ししたり工夫をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族関係、友人関係などご入居者から知りえた情報や面会者と話を記録に残し、共有している。 ジェノグラムを用いて人間関係を図式化したり職員がご入居者の人間関係を把握するよう努力している。	友人や親戚、牧師などの来訪やホームに親族が集まり誕生会をする家族もあり、ゆっくり自由に過ごせるよう配慮をしています。経営していた会社や自宅を見に行ったり、馴染みの百貨店などに職員が付き添い出かけています。また親族の集まる正月などに自宅に戻る方もおり、身支度や薬の準備などを支援したり、併設施設から入居した方は合同行事の際などに交流してもらっています。	

グループホーム桂坂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の得意、不得意、好き、嫌いなどの把握に努め、場面に応じて座席の移動など工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日々のケアから看取り期のケアへ移行する中で、ご本人、ご家族の思いを受容しながら、サポートするように努めている。退所後にもご家族が納骨を済ませたなど知らせに訪問して下さっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人ひとりが、ご入居者と話をしている際には、協力し合い出来るだけ、ゆっくり話せる環境を作っている。又、知りえた情報は、記録に残し共有している。ケアマネジャーに随時報告し、本人本位のケアができるようにしている。センター方式のシートを活用しながら細かくアセスメントを行いケアプランに反映させている。	入居時に自宅を訪問した際は過ごしている部屋を見せてもらい、入居までの暮らしの様子や本人や家族の希望等を聞き意向の把握に繋がっています。利用者を深く知るためのアセスメントを重視し、ゆっくり関わりながら、さりげない会話の中から本人の思いや気づいた事をアセスメントへ追記したり、個人記録や気づきノートに記入し、カンファレンスの中で思いの把握に向けて検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、普段の関わりの中で把握している。センター方式のシートでアセスメントし把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自宅での過ごし方、当事業所での様子をアセスメントし、快適な暮らしが出来るようケアプランを立案している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれに必要な普段の生活での情報、医療関係者、ご家族の意見を記録等に残し、各担当者を中心にモニタリングを行い、ケアプランを立案している。サービス担当者会議には、本人にかかわりのある他職種、ご家族、本人の参加を実施している。他職種は照会文を貰っている。	介護計画は本人や家族の参加の下サービス担当者会議を開き、家族の思いも丁寧に聞きながら本人本位の計画となるよう話し合い立案しています。日々計画の実施状況を記録し、3ヶ月毎のモニタリング、評価時に状態の変化やアセスメントの必要性を確認し、変化のない場合は6ヶ月毎に見直しています。アセスメントは追記し、介護保険更新時や変化があった場合に更新しています。必要に応じて医師の意見を反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケア記録に細かく記録する事に努めている。職員が気づいたことや医療からの情報はノートにも記載している。		

グループホーム桂坂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の様子を常に把握し、その時に合ったケアを直ぐに実践できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	心身の状況を把握しながら、地域のイベント、地域のスーパーなどへの買い物、散歩等を適宜行っている。 それぞれの誕生日や祝いのイベントでは地域のボランティアに活動していただく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と医療に関する相談を適宜行っている。又、協力病院以外に受診が必要な場合は、ご家族と相談しながら必要な医療が受けられる様に支援している。(眼科、歯科、皮膚科、整形外科等)	入居時にかかりつけ医を継続できることを伝えています。約半数の方がかかりつけ医を継続し家族と受診しており、時には職員が送迎を支援することもあり、その都度情報をやり取りしています。24時間連絡が取れる往診医は月2回の往診の他、随時の往診にも対応が可能となっています。訪問マッサージや訪問歯科を受けている方がいたり、専門医への受診は職員が付き添い総合医療機関の協力病院を受診しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の状況の変化、苦痛等に気づいた際には、訪問看護師、主治医に電話等で相談し必要に応じて受診をサポートしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の様子をお見舞いなどに伺い常に様子を知るよう努めている。又退院のめどなどは医療機関の地域連携室に連絡するなどしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を説明し、希望書へご家族の希望を記入していただき同意を得ている。 食事摂取量の低下、体重の変化、疾病の状況の把握に努め、ご家族へ報告をしている。看取り期に近い様子が継続している場合は、医療関係者と共にご家族と話し合いをしている。 最期の過ごし方について、ご本人から知りえた情報は、ご家族へ報告するようにしている。	契約時に看取り指針を基にホームの方針を説明し、状態が変化した際に改めて説明を行い意向を再確認しています。医師や家族の思いが変わる毎に話し合いを重ね、職員間はメールや気づきノートなど活用して情報を共有し看取り支援を経験しています。今後についても最期をどのように迎えるかを家族とも相談しながらできる範囲の支援に取り組みたいと考えており、研修を行い体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応研修を年に1度は開催している。 法人内の初任研修で緊急時の対応研修があり、入職して直ぐの職員は必ず受講している。 入居者一人ひとりの疾病などからそれぞれの緊急時の対応マニュアルを作成しシュミレーション出来る様にしている。又緊急対応時は細かく記録に残し、全職員が適切な対応であったか振り返るようにしている。		

グループホーム桂坂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2度行っている。	年に2回昼夜を想定した避難訓練を行い1度は消防署や消防団、近隣の施設が集まり作られた消防互助会合同の訓練を実施し、独自では夜間を想定した通報や初期消火、避難誘導などを実施しています。また土砂災害時のマニュアルを作成し近隣施設への避難など話し合い決めています。地域の訓練には管理者が参加し、災害に備えヘルメットや数日分の食糧を備蓄しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心への配慮、個人情報保護に関する事を意識できるよう、倫理研修、権利擁護研修等で指導している。言葉づかいや関わり方に意識できるよう、適宜メールや会議で意識できるよう発信している。	運営方針に利用者の立場に立つことや丁寧な対応と言葉遣い等が謳われており、定期的に人権に関する研修を実施し、職員は言葉遣いや身だしなみ等のケアチェックを行い日々の対応を振り返っています。会議で話し合う機会も多く、随時メールで注意喚起したり馴れ合いなどが見られた場合は都度注意し職員への周知に努めています。また希望に添った同性介助にも努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いを伝えやすい様に、部屋の掃除やタンスの整理を個別に行ったり、入浴時に思いを聴くなど言える環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合でケアを行わない様、ご本人の生活スタイルをセンター方式のシートを用いてアセスメントし、認知症の症状とご本人の要望に沿った生活スタイルが作れるよう環境整備に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の生活では、整容に気配りしていただけるよう、起床に入浴後に支援している。イベント、外出等TPOに合った服装や身だしなみが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいもの嗜好をしり、メニューを作成している。野菜を切っていただいたり、みそ汁の味付けをしていただいたり、調理と一緒にしている。又ホットプレートを使用した料理なども積極的に取り入れ、調理をしていただいている。	夕食は調理済みの食事を温めて提供していますが、朝食や昼食は利用者の好みに配慮して手作りし、ささがきや千切りなど利用者のできることに携わってもらい、職員と談笑しながら食事を摂っています。流しそうめんや焼き肉、弁当を持って出かけたり、寿司の出前や敬老会では仕出し弁当を取るなど楽しい食事となるよう配慮をしています。またホットケーキやゼリーなどのおやつ作りも楽しんでます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が少ない方は、ケアプランに一日の必要水分量を決め、意識的に水分摂取していただいている。食事摂取量が少ない方へは、それぞれの障害特性や疾病、生活習慣などを考慮して、自助具の工夫や形態の工夫、嗜好に合わせて行っている。		

グループホーム桂坂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ADLに合わせて、口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心に配慮しながら、排泄パターン、失禁の状況、認知症の症状などの把握に努め、排泄支援を行っている。排泄用具についても、ご本人の尿量などに合わせて使用している。	排泄の支援が必要な方はチェック表を参考に排泄リズムを把握し、仕草などの排泄のサインなども見ながらトイレへの声掛けや案内をしています。個々に合った支援の方法やパッドの種類などは業者にも相談しアドバイスをしています。職員間で気づきノートを活用し情報を共有し、利用者の力に合わせて自身で排泄ができるよう支援に努め、退院後などはほとんどの利用者が入院前の状態まで改善しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、食事摂取など注意をしている。又、便秘の方は、医師や看護師に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に沿って入浴は出来るだけ他の市で頂けるようにしている。(回数、時間等)	入浴は日中の時間帯に週に2~3回を目安に湯温や入浴の順番、短時間での入浴など個々の希望に添いながら一人ずつ湯を入れ替え気持ちよく入ってもらっています。柚子や菖蒲などの季節湯をしたり、希望がある時は入浴剤を使用しています。入浴を断る方はほとんどなく声掛けのタイミングや習慣に配慮することで無理の無い入浴に繋がっています。また浮力で立ち上がりやすい自立支援型の浴槽を設置しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝の時間については、ご本人の生活習慣や認知症、疾病等の情報を分析しケアしている。日中の休息についてもご本人の心身の状況に応じて適宜休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については、主治医、薬剤師からの情報、インターネット等で情報を調べるなどして、副作用や効果などを観察し医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や掃除だけでなくご本人の出来る事、したい事を担当が中心にアセスメントを行い、ご本人の「したい」と思う気持ちを大切に実施していただいている。		

グループホーム桂坂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出、個人の希望に応じて買い物、散歩、ドライブなど支援している。ご家族と一緒に過ごす時間を大切にしていたく為に、ご家族と散歩に出かけていただくよう支援している。	気候の良い時は隣接する公園への散歩や買い物、ドライブなどに出かけたり、年間を通して初詣に始まり、梅や桜、紫陽花やコスモスなどの花見や紅葉狩り、祇園祭などにも出かけています。また時には弁当を持って出かけたり、外出行事によっては家族と一緒に外出できるよう声をかけています。個々の希望を聞きながら外食などの個別の支援にも取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理委任契約を希望されている方は、契約をさせていただいている。買い物、外出に必要なお金はご家族に協力していただき持参していただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住んでおられるご家族には手紙を送っていただいたり、電話の希望があれば電話で話をさせていただいたりしている。毎月の請求時には、ひと月ごとにご様子を写真付きの手紙にして送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度、照明などその時に応じて工夫している。又、リビングは談話が出来るような座席配置を工夫し、通路の確保も出来るだけさせていただいている。ダイニング南側に大きな窓があり、隣の公園が借景となることで、季節感を感じることができている。また、認知症の特性とご入居者の特性を把握し、工夫できている。	正月飾りや雛人形などの季節毎の飾りつけや家族が持参した生花が活けられたリビングは緑豊かな公園に面しており、四季折々に景色を楽しむことができます。居心地よく過ごせるよう利用者の状況に応じて席替えをしたり、離れた場所にもテレビやソファが置かれた談話コーナーがあり、静かに過ごしたい方の居場所になっています。また間接照明を使用し利用者が落ち着ける空間作りを行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは、ダイニングルームから死角になっているため、一人で過ごされている方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッド以外設置していないため、入居時に使い慣れたタンスを持ってこられる方や使いやすいものを購入して設置される方など、ご本人と家族で検討されている。職員は生活上の動線や介護上の配置などを助言している。	居室には洗面台や利用者に合わせて高さを調整できるベッドが備え付けられ、家族には使用していた物を持ち込んでもらうよう伝えています。馴染みの家具を持ち込む方もいますが新しく用意した家具の方も多く、安全な動線を考え配置をしています。大切な遺影、家族や孫の写真などを飾ったり、化粧道具や本、好きなぬいぐるみなどの馴染みの品を側に置き、安心できる居室となるよう配慮をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの目印、浴室の造り、トイレの配置など、自立支援を意識した工夫を行っている。また、ご入居者の状態に応じて、低床ベッドのほか、超低床ベッドも用意している。		